



# WHA GROUP NEWS

WHAグループニュース <http://www.wha-group.com>

vol.40

## WHAグループ、 2021年SETサステナビリティ・アワード授賞式にて 「ライジングスター・サステナビリティ・アワード」を受賞



写真は2021年度SETアワード授賞式の優秀サステナビリティ部門においてライジングスター・サステナビリティ賞を受賞したWHAコーポレーション社長兼グループCEOのジャリー・ポーン・ジャルコンサクン氏

受賞者に選ばれました。2012年に上場したWHAグループは、環境・社会・ガバナンス(ESG)の原則に配慮した取り組みを行い、事業経営の実践と運営で際立った存在となっています。授賞式は、SETのオンラインプラットフォームを通じて行われました。

WHAグループは社会貢献と環境への取り組みが評価され、タイ証券取引所(SET)「SET Awards 2021」不動産・建築分野の上場企業を対象とするライジングスター・サステナビリティ賞

受賞の受賞により我々が積極的に社会の一員として高い水準を保ち、意識を高めていることを再認識す

ることができました。バランス感覚のとれた開発に寄与し、惜しみない努力を尽くしたWHAの取締役役員をはじめ、スタッフ一同へ感謝の気持ちを述べます。そして次の世代のために持続可能な成長を目指す異なる分野の人々、新参者たちのよき手本となることを望んでいます」と述べました。

WHAがこれまで行ってきたグリーン・イニシアティブの中でも特に顕著なのが、「Clean Water for Planet Project」です。2016年に開始されたこのプロジェクトの目的は、天然資源保護の重要性について、顧客や地域社会の意識を高めることでした。WHAグループはラヨーン県ブル

処理システムは故ブミボン・アドゥンヤデート国王(ラマ9世)による王室プロジェクトからヒントを得て着手されました。またチャンタブリー県ノンクラ地方自治体の人工湿地排水処理の開発にも貢献しています。

さらにWHAグループは、意見交換と技術者の育成をするためチュラロンコン大学と排水管理・処理プロジェクトに関する了解覚書(MoU)を締結しました。このパートナーシップは、学術的な知識を工業団地や周辺地域の実社会で活用することに重点を置いています。

WHAグループが運営する工業団地の内外で、二酸化炭素排出量を削減するための統合型太陽光発電システムの普及と設置にも広く成功しています。WHAグループは社会福祉、教育、青少年、スポーツ、人材開発、地域社会のエンパワメントに関わるコミュニティプロジェクトを主導し、コミュニティを強化し、タイの人々の生活の質を向上させることを目指しています。

## CP、WHA、チュララット・ホスピタルが共同で CP-WHA-CHG野戦病院立ち上げへ



CPグループ、WHAグループ、チュララット・ホスピタル・グループの3業種による野戦病院プロジェクトの目的は、中等症の新型コロナウイルス患者を治療し、新型コロナウイルス感染症を治療し、新型コロナウイルス危機の克服に貢献することです。野戦病院は、サムットプラカン県クオラハンピット4キロにあるWHAメガロジスティクスセンターの1万5294平方メートルの倉庫内に設置されました。総合病院に匹敵するこの病院は、新型コロナウイルス患者を治療するにあたり完璧な医療設備を備えた最初の野戦病院とされています。CP、WHA、CHG野戦病院は、2021年10月6日から稼働しています。

CPグループCEOの Supachai Chearavanont氏は、「およそ2年におよび新型コロナウイルスの流行は経済、社会、公衆衛生に大きな影響を及ぼしました。現在もなお、重篤な状態にある患者が多数報告されています。タイの民間企

業として100年の歴史を持つ同社は、ラマ9世の逝去5周年を記念し、生前、困窮者を助け、タイの人々に幸せをもたらすという彼の献身的な姿勢に敬意を表します。そしてラマ10世へと受け継がれた「ボランティア精神」を尊重し、医療・公衆衛生の分野で新型コロナウイルスに感染しているタイの人々を支援しています。タイの人々を支援し援助するという同じ目標のもと、WHAコーポレーション社、チュララット・ホスピタル・グループと協力し、30日間野戦病院の建設を完了させました。CP-WHA-CHG野戦病院は、高水準の設備と機器を備え、バンコクや近隣の県から中等症患者を受け入れる予定です」と述べました。

CP-WHA-CHG野戦病院のほかにも、CPグループでは同様のプロジェクトを3つ運営しています。ルートシン病院によるルートシン野戦病院は保健省医療サービス部とブルクサ不動産と共同で、新型コロナウイルス重症か

ら中等症患者までを収容する野戦病院を運営しています。ノバラットラチャタニ病院とラムカムヘン大学とのパートナーシップによるコミュニティ隔離センターでは軽症患者に安全な隔離場所を提供し、医療資源を保管します。また新型コロナウイルスの無症状態患者を治療するため使用される漢方薬、通称「フアータライジョン」と呼ばれるアンドログラフィス・パニクラータ(日本名:穿心蓮)の植樹を行っています。(4ページへ続く)

能力が高まります。我々はeコマース分野と物流などの関連ビジネスの成長を見込んでいます。消費者が物流業者の選択を出来るようになった今、この投資が売り手から物流業者、そして消費者に至るまでのサプライチェーン全体の成長を支えることになると確信しています。この資金を利用したGZTXシステムのことで、管理、コスト統制、納期短縮などのさまざまなサービスがデジタル技術により開発され、誰もが効率的なサービスを受けられるようになります」と述べています。

WHAグループ、Bualuang Ventureと共同でeロジスティクス市場へ参入。タイのスタートアップ企業GZTXの資金調達シリーズBラウンドへ総額2億6000万バツ以上出資。デジタル時代迎えるに当たり地域の拠点として物流事業者を支援

WHAグループは、Bualuang Venturesと共同で、e-ロジスティクスのデジタルプラットフォームを提供するタイの新興企業GZTXの資金調達シリーズBラウンドの主要投資家となり、総額2億6000万バツあまりの資金を調達しました。GZTX社では、タイ国内企業の総合的な輸送サービスや技術の開発を目指します。また、物流事業者のデジタル時代への参入を支援し、戦略的な地位を確立し地域の中心的役割を果たすことを目指しています。



WHAグループ傘下のWHA Venture Holdingは、バンコック銀行の子会社Bualuang Venturesと共同で交通・物流分野の事業者と全国のユーザーをつなぐデジタルプラットフォームを提供するe-ロジスティクスのスタートアップ、GZTX社の資金調達ラウンド、シリーズBの主要投資家となりました。今回の資金調達額は775万米ドル(およそ2億6000万バツ)です。Bualuang VenturesとWHAグループはそれぞれ300万米ドル(約1億バツ)を出資します。資金調達ラウンド、シリーズBには、サイアム・セメント、グループ(SCG)のAdventures、KKFファンド、CAC Capitalなど、スタートアップ業界の有力な機関投資家も参加しています。GZTX社は、この資金をもとに、輸送に関するサービスや技術を開発し、輸送コストをできる限り削減しながらサービス対象の地域を拡大していく予定です。

WHAコーポレーション社長兼グループCEOのジャリー・ポーン・ジャルコンサクン氏は「WHAグループでは資金調達シリーズBラウンドの主要投資家となることを大変喜ばしく思っております。Bualuang VenturesとGZTX社とのパートナーシップは、WHAグループのデジタル・イノベーション戦略に沿ったものであり、ビジネスパートナーやスタートアップ企業と共にあらゆる製品やサービスを開発するために、新しいテクノロジーとイノベーションを適用することに焦点を当てた重要なコラボレーションであります。これはメガトレンド下の新

たなニーズに、最新の国際基準のスマート倉庫、5G技術とともにロボティクス、オートメーションを活用し、スマートロジスティクスを提供し事業主のビジネスに役立つ解析データの収集、AIとマシンラーニングによる効率化と長期的に事業コストを削減し、WHAグループが提供する製品とサービスに高い価値と品質を生み出します。WHAグループは、タイの総合物流、工業団地、公益事業のリーダーとして、専門知識、4つの主要事業のエコシステム、顧客や国内外のeコマース、物流事業者との良好な関係を生かし、Bualuang Ventures およびGZTX社とともに、タイの起業家の成長、物流コストの削減、タイの競争力強化に取り組みしていきます。今後数年で、WHAグループは有力なパートナーと共に新規投資先を探求し、タイと周辺地域でのサステイナブルな成長と事業拡大達成を目指します」と述べています。

Bualuang Ventures 社長の Krit Phanratanaは「ロジスティクスは専門知識と高いポテンシャルを持つGZTXとの共同出資により、資金パートナーとしてのBualuang Venturesと戦略パートナーとしてのWHAグループが連携し、タイのスタートアップ企業の繁栄を促進し、国内外での競争力を高めます。Bualuang Venturesは、金融サービス大手バンコック銀行の子会社として、GZTXドラマー向けのデジタル融資や運転資金などのGZTXプラットフォームでのサービスをさらに強化するファイナンス・テクノロジーソリューション(FinTech)を導入するとともに、決済データを分析して将来のソリューションにつなげる準備が整っています。これにより利用者がデジタル技術を使って、全国物流業者を開発していくことが重要となります」と述べています。

チャルンポカパン・グループ(CPグループ)、WHAコーポレーション社、チュララット・ホスピタル・グループ(CHG)の3社は共同で、新型コロナウイルス感染症を治療する高水準の野戦病院を立ち上げることを発表しました。このプロジェクトでは、WHAグループが倉庫を改造し野戦病院となる場所を提供し、チュララット・ホスピタル・グループが医師、看護師、医療用品、機器などの医療サポートを全面的に提供しました。CPグループは、ボランティア活動を中心に資金面で

の支援を行います。CPグループ、WHAグループ、チュララット・ホスピタル・グループの3業種による野戦病院プロジェクトの目的は、中等症の新型コロナウイルス患者を治療し、新型コロナウイルス感染症を治療し、新型コロナウイルス危機の克服に貢献することです。野戦病院は、サムットプラカン県クオラハンピット4キロにあるWHAメガロジスティクスセンターの1万5294平方メートルの倉庫内に設置されました。総合病院に匹敵するこの病院は、新型コロナウイルス患者を治療するにあたり完璧な医療設備を備えた最初の野戦病院とされています。CP、WHA、CHG野戦病院は、2021年10月6日から稼働しています。

CPグループCEOの Supachai Chearavanont氏は、「およそ2年におよび新型コロナウイルスの流行は経済、社会、公衆衛生に大きな影響を及ぼしました。現在もなお、重篤な状態にある患者が多数報告されています。タイの民間企



業として100年の歴史を持つ同社は、ラマ9世の逝去5周年を記念し、生前、困窮者を助け、タイの人々に幸せをもたらすという彼の献身的な姿勢に敬意を表します。そしてラマ10世へと受け継がれた「ボランティア精神」を尊重し、医療・公衆衛生の分野で新型コロナウイルスに感染しているタイの人々を支援しています。タイの人々を支援し援助するという同じ目標のもと、WHAコーポレーション社、チュララット・ホスピタル・グループと協力し、30日間野戦病院の建設を完了させました。CP-WHA-CHG野戦病院は、高水準の設備と機器を備え、バンコクや近隣の県から中等症患者を受け入れる予定です」と述べました。

CP-WHA-CHG野戦病院のほかにも、CPグループでは同様のプロジェクトを3つ運営しています。ルートシン病院によるルートシン野戦病院は保健省医療サービス部とブルクサ不動産と共同で、新型コロナウイルス重症か

ら中等症患者までを収容する野戦病院を運営しています。ノバラットラチャタニ病院とラムカムヘン大学とのパートナーシップによるコミュニティ隔離センターでは軽症患者に安全な隔離場所を提供し、医療資源を保管します。また新型コロナウイルスの無症状態患者を治療するため使用される漢方薬、通称「フアータライジョン」と呼ばれるアンドログラフィス・パニクラータ(日本名:穿心蓮)の植樹を行っています。(4ページへ続く)

# WHAグループの気候変動への取り組みについて



WHAコーポレーション株式会社  
会長兼グループCEO  
ジャリー・ポーリン・ジャル・コンサク

ここ数年、気候変動は激化しており、世界中でその影響が広がっています。英国グラスゴーで開催された第26回気候変動枠組条約締約国会議（COP26）をはじめ、その影響を軽減し、解決策を見出すための国際協力の取り組みが加速しています。ビジネス部門は、経済成長だけでなく、環境・社会・

ガバナンス（ESG）に焦点を当てた持続可能な開発コンセプトを採用することで対応しています。国際企業の事例を調べていると、環境負荷を減らすために環境に配慮した事業を実践している組織がたくさんあることに気づきます。例えば、世界的なハイテク企業であるGoogleは、地球温暖化抑制のために輸送プロセスを見直すことでハードウェア製品の二酸化炭素排出量を削減し、2022年までにスマートフォン、ノートパソコン、スマートスピーカーの一部リサイクル素材を採用するとしています。英国の消費財メーカーであるユニリーバは、2030年までに清掃用品などの原料に使われて

いる化石燃料を、再生可能な原料に置き替えることで脱炭素へと転換していきます。SDGs Report 2021では、タイは地域平均の65・7ポイントを上回る74・2ポイントで、165カ国中43位にランクインしています。しかし、所得、健康、福祉における不平等など多くの分野で依然として課題を抱えています。タイは前年度と比べて一定の成果を上げていますが、これらの主要な課題にはまだまだ改善が必要です。政府は、代替エネルギー開発計画、天然資源管理計画、東部経済回廊（EEC）の関連プロジェクトなど、さまざまな開発を通じて実現に向けた努力を行っており、その中でクリーンエネルギーの利用を義務づけています。

民間企業もまた、最新技術を駆使して環境にやさしい事業を展開することで、その役割を担っています。例えば、WHAグループの子会社であるWHAUP社は、2023年までに300MWの太陽光発電を行い、年間最大150トンの二酸化炭素を削減する目標を掲げています。同社はまた、東南アジアで初めて欧州の排出基準を満たした廃棄物焼却・発電プラントのChonburi Clean Energy社への投資を行っています。最先端の技術を搭載したこの発電所は、8・63MWの発電容量を持ち、年間10万トンの産業廃棄物を電力に変換することができます。

## WHAUP、2021年優秀イノベティブ企業賞を受賞

この賞はWHAUPのDNAに根付く、社会にポジティブな変化をもたらす質の高いイノベティブな事業を示す名誉ある賞です。WHAUPは長期的に国の経済と社会へ成長をもたらすモデルともいえる組織となっています。



この賞はWHAUPのDNAに根付く、社会にポジティブな変化をもたらす質の高いイノベティブな事業を示す名誉ある賞です。WHAUPは長期的に国の経済と社会へ成長をもたらすモデルともいえる組織となっています。

## WHAグループ、コロナ禍での安定的な事業運営と健全な財務管理が評価され、TRISレーティング社による会社格付け評価「A-」を獲得

WHAグループは物流事業、ユーティリティ事業、電力事業（投資方針に基づくREITへの資産売却による収益を含む）からの安定的な事業収益、またコロナ禍での柔軟な財務管理と効率性、4つの主力事業を基盤とする明確なビジネス方針などが評価されTRISレーティング社による会社格付け評価で「A-」を受けました。

その結果、賃貸収入により高い収益を計上しています。またポスト・コロナでは土地販売の増加が期待されており、ベトナムでの堅調な事業拡大計画、発電所の電力需要増によるユーティリティ事業での安定した収益、電力事業からの配当収入などが堅調となる見込みです。

今回の格付けにより、当社の財務規律と流動性、財務管理の柔軟性と効率性が評価され、企業資産のマネタイズから不動産投資（REIT）も安定的に行うことができました。

格付けは当社事業4本柱の強い基礎地盤や、財務管理の効率性、強い財務体質、中長期的に利益を生み出す能力だけでなく、企業の資本市場や金融機関から多様な資金調達を反映しており、事業の継続性と将来的な

成長を見込んでいます。WHAグループCEOはコロナウイルスの感染拡大が国内経済に多大な影響を与える中、グループではポジティブな状況を維持することができたとCEOは述べています。物流事業はECOMASと小売事業に支えられ継続的に伸びています。工業団地事業についてもチャイナ・プラズワン政策による海外投資家の生産拠点のリローテーション、インバウンドの移動制限緩和により投資家がタイに入国することが可能となったことで利益を上げることができました。ユーティリティ事業と電力事業も順調に利益を上げています。また第4四半期にはWHAリアルエステート（WHA REIT）への資産売却も予定通り実施いたしました。

物流事業はコロナ禍でレイ・トウ・ビルト型ファクトリー及びレンタル倉庫、高品質の物流センターなどの需要が増え、短期賃貸契約は年間目標を上回る10万平方メートル以上に達し、好調に推移しています。また年内に11万平方メートルを占有する5つの新規プロジェクトが遂行される予定です。フレキシブルなタイプのオフィスを求める投資家のニーズに応えるポテンシャルの高い場所のレン

タルオフィスを提供する「WHAオフィス・ソリューション」もスタートしています。長期的に物流オペレーションのコストを削減し効率化を図るスマート・テクノロジーを駆使した新商品の開発とサービス提供も目指します。そして、ビジネスパートナーやスタートアップ企業と協力して、完全統合されたサービスソリューションによるデータ収集と分析をサポートします。

工業団地事業では現在、12カ所（内訳タイ国内11カ所、ベトナム1カ所）の工業団地を運営しています。今後、新規に工場を開設することを望む世界中の投資家からの要望に応え、タイ国内でさらに3カ所、ベトナムにも2カ所開発する予定です。同社ではスマート・エネルギー、スマート・ユーティリティ、スマート・モビリティなどといった統合的ソリューションを通して顧客の投資と成長をサポートしていくスマート・エコ工業団地の開発を進めております。

# WHA インダストリアルゾーン・ゲアン1の現状と今後



**労働力不足に直面する南ベトナム、一方、北中部ではUターン就職する人々が増加**

ゲアン省に住む Phoun gaxun は

毎朝早くから30分ほどバイクに乗り仕事場に通っています。夜、仕事から戻ると、食事の支度をし、家族の世話をします。この37歳の母親の収入は400万ベトナム・ドン（VND）で、ホーチミン市のテキスタイル工房で働いていた時の1/2ほどですが、それでもとても生活は充実しており幸せであるといっています。

Phounさんは高校を卒業してから昨年9月にゲアン省に戻るまで、ずっと南部のホーチミン市で働いていました。Phounさんと3人の姉妹は、ホーチミン市で2カ月間、新型コロナウイルスの危機と向き合い、最終的にゲアン省に戻って定職に就こうと決めたのでした。姉妹全員、同じ決断を下しました。

夫と子どもたちと一緒に食事をとりながら、Phounさんは2カ月前のホーチミン市での隔離生活を思い出していました。「姉妹4人で20平米に満たない小さな部屋でインスタント食品を食べていました。家の近くで安定した職に就き、日々、子どもと一緒に過ごすことが出来るのは何よりも幸せだといっています。

ゲアン省の労働・疾病兵・社会局によると、2021年1月から10月の間に帰省したゲアン住民は9万2000人で、Phounさんはそのうちの1人です。新型コロナウイルスの感染拡大で南部の省・市から帰省した労働者は6万6700人に達しており、その62%は未熟練労働者です。さらに、北部の省からも2万5300人を受け入れました。

他省から帰省した労働者のうち4万5200人以上が経済地区で

の仕事に申し込み、3000人が海外での仕事に就きました。ゲアン省労働・疾病兵・社会局によると省内の57企業で月収500万VNDから3000万VNDの労働力が1万5000人必要とされているとのこと。

10月のプレス・ミーティングでゲアン省労働・疾病兵・社会局の Bui Van Hung 次長は他省から見込まれる帰省者4万5000人には省内外の企業への就職先が決まっていると発表しました。

ベトナム南部の主要な経済地区では、新型コロナウイルスの感染拡大の影響もあり、人材不足となっている一方、北中部などの地域ではUターン就職する人の波で恩恵を受けています。ゲアン省に所在する企業は190万人の労働人口に加え、ハティン省やタインホア省など隣接する省からも多くの経験豊富な労働者を確保することができます。

かつての中部地方は農業が主な産業で、人々は仕事を見つけたために何千キロも移動しなければなりません。今日、北中部地域は、WHA インダストリアルゾーン1 ゲアンなど新しい、近代的な工業団地の開発により、国内外の企業が工場を設置する魅力的な土地となっています。

**ベトナムへのFDI進出**  
新型コロナウイルスの感染拡大によるさまざまな困難や課題があるにもかかわらず、ここ数年、ベトナムは外資系企業にとって有望な直接投資先（FDI）となることが、シンガポール国際問題研究所（SIIA）の最新レポートで明らかにされています。

水準を維持しています。「ベトナムは、主要市場に近接しており、大規模な国内市場、豊富な若く熟練した労働力や環太平洋パートナーシップに関する包括的及び先進的な協定（CPTPP）や最近のEUベトナム自由貿易協定（EVFTA）、地域的な包括的経済連携協定（RCEP）を含む多数の主要自由貿易協定、整備された交通インフラなどさまざまな重要かつ強みとなる要素を持ち合わせており、海外の潜在的投資家の注目を集めています」とWHAコーポレーション副会長兼WHAインダストリアル・デベロップメント社産業・国際部門取締役のデビッド・ナードン氏は述べています。

韓国のコングロマリットSKグループは、ベトナムのトップ食品飲料・小売企業であるマサン・グループ傘下のザ・クラウン・エックスに3億4千万ドルを投資しました。オランダの飼料製造デ・ハウス社は、東南アジア飼料市場での地位を強化するため、マサン・グループの飼料事業を買収しました。韓国のアム・テクノロジー社は、バクニン省の半導体製造工場に16億ドルを投入する予定です。

ゲアン省東南経済区の報告によると、2020年に入ってから、VSIIPゲアン工業団地とWHAインダストリアルゾーン・ゲアンはそれぞれ8つのプロジェクトのライセンスを取得し、ホアンマイ工業区では現在プロジェクトの投資手続きを行っています。

デビッド・ナードン氏はベトナムで新型コロナウイルスの感染拡大が始まってからも、WHAインダストリアルゾーン1ゲアンでは

多くの投資家を迎えてきたと話します。特に2021年に入っては Goetek Precision Industry、ジアンタイ・ベトナム、Thanh Ty Service Trading、Vietwin Industrial、ミンフー・ステイ、WHAインダストリアルゾーン・ゲアンを投資先に選んだ主な理由を尋ねると、どの企業も同社の高度のインフラ、工業団地開発30年と非課税優遇措置、ベトナム当局からのサポートなどをあげました。さらには労働力の確保と質の重要性もあげられました。

総面積145ヘクタールのWHAインダストリアルゾーン1ゲアンは、香港、日本、タイ、中国の54%は、香港、日本、タイ、中国、ベトナムなどの10以上の投資家へ賃貸され、事業分野は建築資材、食品加工、ソーラーパネル、電子機器と多岐に渡ります。WHAグループでは、この数字が今後、数年に渡り増加すると予測します。

工業用地に対する顧客の需要が高まる中、WHAグループではゲアン省での事業展開を加速し、残りのフェーズの開発を進めています。総面積354ヘクタールのフェーズ2については昨年2021年5月に必要な改正投資登録証明書を取得し、2022年初めに建設を開始する予定です。

「既に12ヘクタールの用地の関心を寄せている顧客を確保しています」とデビッド・ナードン氏は明かしました。

WHAインダストリアルゾーン1は、フェーズ1、2、3の合計750ヘクタール、その後の拡張分1100ヘクタールが完成すると、総面積は1850ヘクタールになります。

WHAグループでは、中国や韓国などからの投資家が増え、特に北部・北中部では電子機器、自動車関連、消費財の分野で投資家が増える予想をしています。これは、ラックフェン深海港と物流、労働力の確保、国道などのインフラ整備が進んでいることに起因します。「ゲアン省の立地は投資の流れを呼び込む、最高の立地にあります」とデビッド・ナードン氏は述べています。



WHA インダストリアル・デベロップメント社はこのほど、日本アセアンセンターと共同で「ゲアン省をベトナムの戦略的製造拠点として」と題したウェビナーを開催しました。本セミナーでは、ベトナム、特にゲアン省への投資機会を探っている日本企業を対象に、ゲアン省への投資のメリット、オンラインでの簡素な投資手続き方法、日本の投資プロジェクトの事例などが紹介されました。



**WHAベトナム、ウェビナー「ゲアン省をベトナムの戦略的製造拠点として」を開催**

ル・デベロップメント社営業開発部ディレクター湯浅謙一氏は、WHAインダストリアルゾーン・ゲアン1の世界クラスのユティリティとインフラを紹介し、抜きん出た開発、運用、メンテナンス能力を強調、投資家が円滑に運営し、持続的成長をWHAとともに達成できると説明しました。

ウェビナーでは、ゲアン省外務庁の Tran Khanh Thuc 局長が、ゲアン省の良好な環境と政府のFDI支援について紹介しました。

日本の投資家を奨励するため、計画投資省 外国投資庁 投資促進センター（北部） 副局長の Do Thi Quynh Nga 氏が、ベトナムにおけるFDIと優遇政策のガイドラインについて説明しました。



**WHA Industrial Zone 1 Nghe An, Vietnam**  
Your Manufacturing and Export Base to the Global Market

- Smart Eco Industrial Zone in Nghe An
- Preferred Location with High Investment Incentives
- High Quality Standard Infrastructure and World-Class Facilities



Advertise with Us  
**WHA Billboards & LED Display**  
Billboard Locations: WHA Plaza1, WHA ESIE 1  
LED Display Locations : ESIE Office, WHA ESIE 2 Office, WHA Plaza 2, WHA Plaza 3

Call for more info +66 2 719 9555  
www.wha-industrialestate.com

# WHA GROUP ニュースダイジェスト

## WHA GROUP

### カザフスタン大使、カザフスタン独立30周年を記念して WHAグループCEOへ宝飾品を贈呈

駐タイカザフスタン共和国大使館Rashan Yesbulatova特命全権大使(写真左から3人目)はカザフスタン有名デザイナーの作品である指輪をWHAコーポレーション社会長兼グループCEOのジャリー・ボーン・ジャルコンサクン氏(写真中央)へ贈りました。カザフスタン独立30周年を記念して作られた宝飾品は、優秀なビジネスウーマンとして選出された方々へ贈呈されました。



### WHAグループ、WHAタワーに新オフィスを開設した Next Energy Development 社を祝福

WHAコーポレーション社会長兼グループCEOのジャリー・ボーン・ジャルコンサクン氏とWHA役員らはこのほどWHAタワーに入居したNext Energy Development社会長兼CEOのPakpoom Wiparkulpitak氏に花束を贈りました。バンナートラッド7キロ地点に位置するランドマーク、かつ最新のグリーン・テクノロジーを備えるWHAタワーで、Next Energy Development社は事業を強化し、国内および地域で拡大する顧客に持続可能なエネルギーソリューションを提供することが可能になります。



WHAコーポレーション社会長兼グループCEOのジャリー・ボーン・ジャルコンサクン氏(写真中央)から花束を受け取るNext Energy Development社会長兼CEOのPakpoom Wiparkulpitak氏(左から3人目)。Next Energy Development社副社長のKamolchai Praditpholphanit氏(左から2人目)とWHAグループ役員も同席しました。

### WHAグループ、 チュラロンコン大学へ寄付

WHAコーポレーション社は年一回のチュラロンコン大王記念日に行われる定期イベントにおいてチュラロンコン大学に対し10万パーツを寄付しました。会社を代表してWHAユーティリティ&パワー社ユーティリティ・カスタマー開発部長のVaranon Laosuwan氏(写真左)がチュラロンコン大学同窓会兼組織委員会代表のAtcharin Pattanaphanchai氏へ、経済的に困難な状況にある学生にオンライン授業用コンピューターの購入、学校給食プログラム助成のための寄付を手渡しました。



## WHAUP

### WHAUP社、WHA工業団地のユーティリティシステムのコスト削減および 蓄電システム付き屋根置き型太陽光発電プロジェクトに2500万パーツを投資

WHAユーティリティ&パワー社(WHAUP)は、工業団地における完全統合型ユーティリティと電力サービスの提供において、主導的な役割を担っています。同社はイースタンシーボード工業団地(ラヨン)で、820kWpの屋根置き型太陽光発電プロジェクトと550kWhの蓄電システム(BESS)を立ち上げ、電力システムに電力を供給します。11月の商業運転(COD)開始後、WHAUPは、年間約400万パーツのエネルギーコスト削減と、最大10,500トンのCO2排出量削減に貢献するとしています。

WHAUP社CEOのNiphon Boondechanan博士によると同社の屋上と浮遊式蓄電システム付き太陽光発電プロジェクトが、イースタンシーボード工業団地(ラヨン)のユーティリティシステムの重要な一部であることを明らかにしました。11月に商業運転(COD)を開始したこの2500万パーツ規模のプロジェクトは、発電容量が820kWp、蓄電容量が550kWhとなっています。太陽電池と蓄電池(BESS)を設置し、浄水装置の電力を生産・供給しています。余剰電力は蓄電され、プラントの需要に応じた電力を供給出来ない場合に不足分を補います。このシステムにより、太陽光エネルギーは最適に利用され、エネルギーコストを削減することができ、WHA工業団地のユーティリティシステムに、より良いエネルギーの安全性と安定性を提供します。

また、BESSを用いたこの太陽光発電プロジェクトは、年間約400万パーツの省エネに貢献し、地球温暖化や温室効果ガスの削減を目指す産業界の動きに合わせて、CO2排出量を1万500トン削減します。屋根置き型太陽光発電プロジェクトは、設置が簡単でコストも低く、環境保護に適したソリューションと考えられています。また、日照時間の長いタイにも適しています。

タイでは、これまで太陽光発電の蓄電システムに制約があったため、太陽光発電だけに頼ることはできませんでした。化石燃料を使った電力を併用せざるを得ませんが、BESSの技術が発達し、費用も抑えられてくると、制約も減っていきま

した。WHAUPは、BESSシステムが近い将来、大きな役割を果たすと確信し、より多くの事業者の太陽光発電への転換を促します。また電力貯蔵システムの潜在的な成長を見越して、顧客のニーズに応えるために、屋上型太陽光発電の開発とBESSへの投資を加速させています。

Niphon Boondechanan博士は、WHA工業団地の顧客と屋上型太陽光発電とBESSの設置について継続的に協議してきたと述べています。ターゲットとしているのは、高コストの生産プロセスを持ち、高いエネルギー安定性を必要とする企業です。同時にWHAUPでは、WHA工業団地の事業者からの信頼を高め、エネルギーコストを削減するために、太陽光発電とBESSシステムを利用したスマートマイクログリッドシステムに関する研究も行っています。

WHA工業団地内の事業者のエネルギーの安定性を高めるためWHAUPは太陽光発電プロジェクトへの投資機会を増やしています。2021年の第3四半期末には、85メガワットの太陽光発電の購入契約のうち、50メガワット以上の供給を開始しました。21年末には90メガワット、2023年には300メガワットまで太陽光発電の購入契約を増やすことを目標としており、産業界の顧客向けに電力とユーティリティを統合したサービスを提供する専門性を発揮しています。



### WHAUP、 エネルギー委員会のWHA工業団地訪問を歓迎

WHAユーティリティ&パワー社(WHAUP)の経営陣は、エネルギー委員会のWHAイースタン・シーボード工業団地1(WHA ESIE1)とWHAイースタン・シーボード工業団地(WHA ESIE)訪問を歓迎しました。エネルギー委員会メンバーは、WHA ESIE1にあるガルブ・エナジー・デベロップメント社の子会社である独立系発電事業者(IPP)、ガルブSRC社を案内されました。訪問の目的は、WHA工業団地内で使用されている電力や再生可能エネルギーなどのユーティリティやエネルギーの管理について情報共有をすることにありました。



## CSR

### WHA、サラブリー県の洪水被害者を支援

WHA インダストリアル・デベロップメント社顧問のSunthorn Kongsunthornkitkul氏(写真3人目)はWHAサラブリー・インダストリアルランド(WHA SIL)代表団とともに洪水被害にあった被害者のための寄付金10万パーツをSomphop Samitasiriサラブリー県副知事(写真中央)へ手渡しました。



### WHAサラブリー・インダストリアルランド、 労働管理と事故防止部門で受賞

WHA インダストリアル・デベロップメント社が開発したWHAインダストリアルランド(WHA SIL)はサラブリー県内で操業する企業の事故件数削減を目標としたパイロットプロジェクトとして実施された「事故防止プログラム」への支援が評価され、県内の労働保護福祉局より特別表彰を受けました。今回の受賞は、安全で生産性の高い職場環境において従業員の福利厚生を促進するための優れた取り組みが評価されたもので、Somphop Samitasiriサラブリー県副知事(写真前列中央)より、WHAインダストリアル・デベロップメント社の工業団地運営ディレクター Rakphol Kangnoy氏(左3人目)とWHA SILの顧客らに賞が贈られました。



### WHA、サラブリー県ノンケー地区の ワクチン接種会場に飲料水を提供

WHAサラブリー・インダストリアルランド(WHA SIL)サイト責任者のNarongsak Chatchawan氏(写真左から2番目)は、WHAインダストリアル・デベロップメント社(WHA ID)を代表して、労働省社会保障事務局(SSO)が設置した予防接種センターに飲料水100ダースを寄贈しました。寄付はSSO局長Pailin Jindamaneeporn氏(写真左から3番目)、SSOサラブリー県職員Naruemon Cheorbundit氏、Kalaya Hemanat氏が受け取りました。飲料水は、新型コロナワクチンの初回接種のためにノンケー競技場に来たノンケー地区とウィハーンデン地区の人々に配られました。WHAサラブリー・インダストリアルランドでは、地域の人々がウイルスに対する免疫をつけるために予防接種を受けることを重要視しています。



### WHAグループ、古河電池(株)の2回目ワクチン接種会場を提供

WHAサラブリー・インダストリアルランド(WHA SIL)サイト責任者のNarongsak Chatchawan氏はWHAインダストリアル・デベロップメント社(WHA ID)を代表して古河電池の従業員らが2回目の新型コロナワクチン接種を行う会場を手配しました。ワクチンは中国シノファーム製で、チュラボン・ロイヤル・アカデミーにより提供されました。新型コロナウイルスの感染拡大を抑え、変異株の出現を防ぐための有効なワクチン投与のため、ノンケー病院の医療チームが接種会場に赴きました。



(1ページより続く)

CP・WHA・CHG野戦病院は、パンデミックからの復興を加速させるための民間セクター協力の好例と言えます。タイ国民と国が危機を乗り越えるために、WHAグループは新型コロナウイルスと戦う重要な拠点として、WHAメガロジスティックセンター内の1万5294㎡の倉庫を無償の野戦病院として改築しました。ウイルスに感染した場合、感染拡大を食い止めるためには、患者が迅速に治療を受けることが非常に重要となります。また、WHAグループは他の総合病院と同等の水準を保てるよう、病院内を整備しています。人口密集地から離れた場所、チュララット病院の隣接し、アクセスは便利です。CP・WHA・CHG野戦病院は、7月にオープンしたサムットプラカーン・ラムジャイ5病院に続き、WHAグループにとってサムットプラカーン県で2軒目の野戦病院となります。WHAコーポレーション社会長兼グループCEOジャリー・ボーン・ジャルコンサクン氏は「医療を強化し、タイの人々の福利厚生向上に貢献するという当グループの取り組みを反映したものと述べています。」

チュララット・ホスピタル・グループ執行委員長兼病院長のKanpol Plusit博士は、「サムットプラカーン県とその近県では、重症及び中等症患者のための病床が不足しています。チュララット・ホスピタル・グループはサムットプラカーン県にあり、タイの東部諸県に複数の支部を持つ私立病院グループで、新型コロナウイルス対策では前線に立っています。我々は、CPグループとWHAグループと協力して、CP・WHA・CHG野戦病院を建設し、総合病院から中等症の患者を預かることで一般病院の負担を軽減していきたいと考えています。」

この野戦病院は、タイ保健省の基準を満たす医療機器や設備を備えており、新型コロナウイルスの患者を治療するための設備は総合病院と同等であると確信しています。最低でも15人の医師と40〜50人の看護師、医療スタッフを配置し、無休体制で患者らのケアに当たります。また、薬や医療用品を扱う調剤室、検査室、レントゲン室も備えています。栄養士が常駐し、適切な栄養指導も行います。また、合併症のある患者のための移動式透析装置や、衣服の管理システムもありです。当野戦病院は治療へのアクセスを容易にし、公衆衛生システムの負担を軽減することができると述べています。

CP・WHA・CHG野戦病院は、10月上旬から新型コロナウイルス中等症患者の受け入れ態勢を整えています。14のチュララット・ホスピタルが患者のスクリーニングを行い、サムットプラカーン県のWHAメガロジスティックセンター内にあるこの野戦病院での治療に割り振る予定です。

CP・WHA・CHG野戦病院は、以下の通り、最新のイノベーションとテクノロジーを駆使し、他の総合病院と同等の水準のサービスを提供するオペレーションを確立しています。

1. 新型コロナウイルスの蔓延を防止するため、各患者ベッドの頭部に換気パイプを設置し、効率的な換気と紫外線殺菌を可能とする
2. 陰陽圧室を設置。陰圧感染隔離室では病室から他のエリアへのウイルスの拡散を防ぎ、陽圧室は他のエリアから室内へのウイルスの拡散を防ぐ
3. 医療機器用RO水製造装置、特に治療のために純粋が必要となる透析患者のためのシステム
4. 酸素ボンベを含む医療ガスや術中患者の治療や医療従事者ための医療用ガス供給システム
5. 高流量酸素療法と心拍・バイタルサインモニター
6. 合併症用の移動式血液透析装置
7. 他の総合病院と同等の技術水準を持つ検査室、レントゲン室、24時間体制の薬品・医療品室
8. 看護師や医療従事者が患者のモニターやケアをするための特別な医療機器を備えたナースステーション
9. 中等症患者用の緊急通報装置。医療スタッフにすぐに助けを求めるとのコミュニケーションシステムボックスを設置
10. 5G通信システムの完備。CCTV(監視カメラ)、インターホンから有線オーディオシステム、患者を支援するロボットなどに利用する